

(研究の経過と概要)

## 1. 研究主題

### 意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成

～発問の工夫や4技能の関連による、話すことにつなげる指導の研究～

## 2. はじめに

### (1) 研究主題の設定理由

東山梨地区外国語部会では、毎年、研究会で学んだことを授業で活かせるような実践的な研究を目指し、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行ってきている。

今年度は研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～発問の工夫や4技能の関連による、話すことにつなげる指導の工夫～」とし、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年度から継続して研究していくこととした。また、特に今年度は具体的なアプローチを明確に設定し、発問を工夫することや4技能の効果的に活用した授業づくりに取り組むことで、児童・生徒が意欲的に英語を話す姿を引き出すことを目標としている。

このテーマ設定の背景には、一昨年度から小学校で新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていることや、昨年度より中学校で新学習指導要領が全面实施されていることの中で、外国語活動にあまり意欲的に取り組まない児童や、語彙力や文法知識が定着していない生徒が少なからずいるという課題がある。しかしながら、私たちは、小学校における外国語活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。本部会の話し合いの中で、このような基礎学力を身につけさせていくためには、学習の原動力や推進力であり、学習を始めから最後までやり遂げようとする意志である「学習意欲」を高めることが最も重要であると考えた。この学習意欲を高める研究の必要性を山梨大学の田中武夫先生と田中知聡先生も、著書の中で認め、「現在の学校教育が直面している最も大きな課題の一つは、生徒たちの学習意欲が下がっていることです。～中略～学ぶことが知的に面白い、役立ちそうだといった生徒の内発的な動機をいかに高めていくかが、今の教育の大きな課題となっています。」(『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』p.4)と著している。

このようなことから、今年度は、児童・生徒に対する発問の工夫をすることや4技能を効果的に関連させた授業を展開することで、話すことに積極的に取り組もうとする姿勢を引き出し、学習意欲を高めるという最終目標にせまっていくこととした。

## (2) 研究の経過と計画

月 日	研究計画／研究内容
5/ 8	研究主題，研究組織の検討
5/15	研究主題，研究内容，研究組織，研究方法の検討と決定
6/ 5	研究主題についての文献研究
8/ 5	夏季学習会 ・研究授業に向けた指導案の検討 ・発問の工夫についての実践学習会
8/30	統一授業研（授業者：勝沼中 梶原ナツミ先生）
10/ 2	支部秋季教研 ・各校での実践内容と成果・課題等の報告と交流 ・前期研究のまとめ
11/27	各校での実践内容と成果・課題等の報告と交流
1/15	研究授業に向けた指導案の検討
2/ 5	統一授業研（授業者：岩手小 飯室林先生）
2/12	支部冬季教研 ・今年度の反省と来年度の研究の方向性についての検討

### 3. 研究目的および研究仮説，仮説の検証方法

（研究目的）

英語学習における基礎学力を児童・生徒に身につけさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

（研究仮説）

発問の工夫や4技能の関連によって，児童・生徒は主体的に話すことに取り組むようになり，英語学習に対して意欲をもって臨むことができるようになるだろう。

（仮説の検証方法）

研究主題を意識した各校での実践や研究授業を行い，仮説の検証をする。

### 4. 研究の進め方

- (1) 英語の授業における発問の工夫についての文献研究
- (2) 発問に着目した授業実践の映像を使用しての研究会
- (3) 各校での授業実践についての報告と研究協議
- (4) 研究主題を意識した研究授業と研究協議

## 5. 仮説検証実践

### (1) 指導案および研究討議

東山梨教育協議会

統一授業研 外国語部会

## 第1学年英語科学習指導案

指導者 教諭 梶原 ナツミ

ALT Nicholas Bukowski

### 1 単元名 Unit5 お祭り大好き

(NEW HORIZON English Course 1)

### 2 単元設定の理由

#### (1) 単元観

本単元では、町のお祭りにブラウン先生と生徒たちが出かける。Part1ではブラウン先生と店員による注文の対話を通して、名詞の複数形を学ぶ。Part2ではブラウン先生と一郎による音楽やCDに関する対話においてHow many 複数形～?を学習する。Part3ではさくらとケビンによる金魚すくいをしながらの対話を通じて、提案、指示、申し出をする表現を学んでいく。

数をともなった表現は日常生活の中でよく使われるので、名詞の複数形を理解し、How many～?の文とその応答の文を使えるようになることは、表現の幅を広げることにつながる。また、日常生活において、提案、指示、申し出をする場面は多く、Let's～.の文や命令文の意味を理解し、表現できるようになれば、自分の意志をさらに伝えることができるようになる。1年生として、自己表現を広げていくという観点から大切な単元であると考えられる。

店で注文をするという場面は複数形の学習に効果的であるだけでなく、1年の早い段階から「英語を使う」ことを生徒に実感させることもできる面をもつ。さらに、食べ物やCDなど、生徒の生活にある身近なもので複数形を導入することで、より現実味をもった学習となり、知識を定着させやすくなる。小道具などを準備し、雰囲気を出し、生徒たちが楽しみながら学習ができるようにしたい。

#### (2) 生徒観

1年C組は、男子14名、女子15名、計29名のクラスである。英語学習に対して、意欲的であり、特に活動やクイズに対しては、積極的に臨んでいる姿勢が見られる。また、ペアでの練習、個人読み、一斉音読、活動する際の声は大きいですが、一部の生徒の声が目立っている状況であったり、対話文や活動における英文の発表などの際には、積極的に挙手をする生徒は限定されたりしている。

本文理解の際においては、家庭学習で本文をノートに写してきているので、授業では、日本語に訳す時間をとり、その後全体で訳を確認し、T or FやQ&Aをしている。本文の導入では、生き生きとした様子が見られ、本文の内容理解においては、生徒は一生懸命取り組んでいる。

### (3) 指導観

上記の実態を踏まえ、複数形は、複数形の作り方をしっかり指導し、その使い方を定着させ、その形と発音をくり返し練習することによって理解させる。

**How many** 複数形～？とその応答文では、**How many** 複数形～？の型をリズムにのってくり返し覚えさせ、**How many** 複数形～？の表現を用いた活動を取り入れていく。

**Let's** ～.の文と命令文では、基本的な文法の形を押さえ、実際に自分の意志を伝える活動を実践していく。

本文理解の際には、発問を工夫し、生徒が場面の様子を想像しながら、本文の内容理解に意欲的に取り組み、内容を深く理解するところにつなげていきたい。

### 3 研究との関わり

東山梨教育協議会外国語部会におけるテーマである「意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成～発問の工夫や4技能の関連による、話すことにつなげる指導の研究～」を受け、具体的な取り組みとして、段階的に発問を工夫することとした。発問には、以下の3つのタイプがあり、それらを段階的に授業に取り入れる。

- ① テキスト上に直接示された内容を読み取らせる事実発問
- ② テキスト上の情報をもとに、テキスト上には直接示されていない内容を推測させる推論発問
- ③ テキストに書かれた内容に対する読み手の考えや態度を答えさせる評価発問

そして、発問を工夫することで、以下の3点が期待できる。

- ・発問を工夫することで、テキストを読みたいという意欲が高まる
- ・内容理解が深まる
- ・内容理解が深まったことで、音読に対して意欲的に取り組むことができる

段階を踏んで、発問を工夫することを通して、生徒が内容理解に意欲的に取り組むことができ、さらに、音読、スピーキングにつなげていきたい。

### 4 単元の指導目標

- ・名詞の複数形の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・**How many**～?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・**Let's** ～の文と命令文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・「～しよう」と提案したり、「～しなさい」と指示したり、「～してください」と申し出たりすることができる。

## 5 本時の授業

(1) 日時 平成 25 年 8 月 30 日 (金)

14:00～14:50

(2) 場所 1 年 C 組教室

(3) 本時の目標

- ・興味を持って、主体的に、自分の力で読もうとする。【関心】
- ・書かれた情報を正確に読み取ることができる。【理解】

(4) 展開

学習内容	生徒の活動	教師の活動 (T1:JET, T2:ALT)	評価規準 (評価方法)
Greeting 2min	Good afternoon, Ms.Kajihara and Nick.  I'm fine, thank you. And you?	T1: Good afternoon, everyone.  T2: Good afternoon. How are you?  I'm fine, thank you.	
Warm-up 3min	・教師の質問に対して答える。  20 .  20 pens.  200	・How many を用いて、生徒に質問する。 T2: How many pens do you have? T2: Let's check. T2: 20 pens. T1 : Repeat after Nick. T2 : 20 pens  T2: How many comic books do you have?  T2: 200 comic books. T1 : Repeat after Nick. T2 : 200 comic books.	質問に対して発言しようとする意欲が見られたか。 (挙手)
Introduction 5min		・祭りを連想させるものを用いて、本時のテーマを導入する。 (T1 が実物を提示し、生徒の関	コミュニケーションに対する意欲が見られたか。

	<p>花火</p> <p>かき氷</p> <p>浴衣</p> <p>夏／祭り</p> <p>Yes, I do. / No, I don't.</p>	<p>心を高める。)</p> <p>T2: What's this?</p> <p>T2: A firework.</p> <p>T2: What's this?</p> <p>T2: Shaved ice.</p> <p>T2: What's this?</p> <p>T2: Yukata.</p> <p>T2: What can you imagine from these things?</p> <p>T2: Summer./ Festivals.</p> <p>T2: Today's topic is a festival. Do you like festivals?</p> <p>T2: Let's go to the MIDORI FESTIVAL.</p>	<p>(観察)</p>
<p>Check the new words</p> <p>10min</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語の発音を ALT の後に続いてリピートする。</li> <li>・意味の確認をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音練習をする。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ALT の後に続いて</li> <li>2. 列ごとに</li> <li>3. 男女に分かれて</li> <li>4. 日本語を見せて英語を言う</li> <li>5. ALT の後に続いて</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュカードを用いて、新出単語の発音を ALT にしてもらおう。</li> </ul> <p>T1: Look at the cards. Repeat after Nick.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味の確認をさせる。</li> </ul> <p>T2: How do you say “〇〇” in Japanese? ／What's “〇〇” in Japanese?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音練習をさせる。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Repeat after Nick.</li> <li>2. This line, please.</li> <li>3. boys/ girls</li> <li>4. only students</li> <li>5. Repeat after Nick.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言や発音練習に取り組もうとしているか。</li> </ul> <p>(観察, 挙手)</p>

<p>Understanding the outline</p> <p>6min</p>	<p>・本文のリスニングを聞く。</p> <p>買い物, 注文</p>	<p>・JET と ALT で小道具を用いて実演しながら, 本文の範読をする。</p> <p>(Ms. Brown を Nick, Clerk を JET とする)</p> <p>・本文の概要をつかませる。</p> <p>T2 : What did I do? Shopping./ Ordering.</p>	
<p>First reading</p> <p>10min</p>	<p>・プリントを配る。</p> <p>・発問に英語で答える。 (本文から抜き出す。ただし, ④は自分で考えて書く。)</p> <p>① five cups of juice</p> <p>② five hundred and fifty yen</p> <p>③ fifty yen</p> <p>④ six hundred yen</p> <p>・数名の生徒が答えを発表し, 答え合わせをする。</p> <p>・P.44 の内容を確認する。</p>	<p>・プリントを配布する。</p> <p>・内容についての発問を提示する。</p> <p>T1:</p> <p>① What did Nick buy ( get)?</p> <p>② How much was the juice?</p> <p>③ How much was the change?</p> <p>④ How much did Nick pay?</p> <p>・数名の生徒に発表させ, 答え合わせをさせる。</p> <p>T2: Check your answers.</p> <p>・P.44 のまとめをする。</p> <p>1. オレンジジュースを 5 つ 2. 合計 550 円 3. おつりが 50 円 4. 600 円を支払ったこと</p>	<p>・興味を持って, 主体的に, 自分の力で読もうとする【関心】</p> <p>・書かれた情報を正確に読み取ることができる。</p> <p>【理解】</p> <p>(プリント)</p>
<p>Second reading</p> <p>10min</p>	<p>・発問に日本語で答える。</p> <p>① 困っている ／申し訳なさそう</p>	<p>・内容についての発問を提示する。</p> <p>T1:</p> <p>① How did Nick feel when he said “Excuse me.” ?</p> <p>T2:</p> <p>For example, happy, angry, surprised and so on.</p> <p>T1: Excuse me.はどんな感情で</p>	<p>・興味を持って, 主体的に, 自分の力で読もうとする【関心】</p> <p>・書かれた情報を</p>

	<p>②ジュースが 1 つ足りないから ／店員さんが 1 つジュースを渡し忘れたから</p> <p>③解決した／解決しなかった</p> <p>・ペアで意見を共有する。</p> <p>・数名の生徒が自分の考えを発表する。</p>	<p>言っているのか？</p> <p>T1: ② Why did Nick come back again? T1:なぜニックは再び戻って来たのか？</p> <p>T2: ③Was the problem solved? T1:問題は解決したか。</p> <p>・ペアで意見を共有させる。</p> <p>T2: Make pairs and share your ideas.</p> <p>・数名の生徒に考えを発表させる。</p> <p>T2: Any volunteers?</p>	<p>正確に読み取ることができる。</p> <p><b>【理解】</b> (プリント)</p>
<p>Conclusion</p> <p>3min</p>	<p>・本時のまとめと次時の連絡を聞く。</p>	<p>・本時のまとめと次時の連絡をする。</p> <p>① 教科書の内容理解を中心に学んだこと</p> <p>② 次回は音読を中心にする</p>	
<p>Greeting</p> <p>1min</p>	<p>Goodbye, Ms. Kajihara and Nick.</p> <p>You, too.</p> <p>See you.</p>	<p>T1: Goodbye, everyone.</p> <p>T2: Goodbye.</p> <p>T1: Have a nice time after school.</p> <p>T2: See you next week.</p>	<p>コミュニケーションに対する意欲が見られたか。</p> <p>(観察)</p>

(5) 評価規準

- ・興味を持って、主体的に、自分の力で読もうとしたか。【関心】
- ・書かれた情報を正確に読み取ることができたか。【理解】



(6) 板書計画

	Friday, August 30 <sup>th</sup> , 2013 sunny and hot
① five cups of juice	① 困っている／申し訳なさそう
② five hundred and fifty yen	② ジュースが1つ足りないから／ 店員さんが1つジュースを渡し忘れたか ら
③ fifty yen	③ 解決した
④ six hundred yen	

※研究討議より

・日常の授業でT FやQ & Aを通し，児童・生徒が発問を与えられたり，それに答えたりする機会を多くして，教師・生徒間の英語でのキャッチボールを増やしていくことで，児童・生徒の学習意欲はさらに高められるのではないか。

・今回は浴衣やカップなどの実物を使用してのロールプレイでの導入が生徒の興味・関心を引くものだった。実物を授業に持ち込むことで，生徒の授業の内容に対する集中力も増した様子が見られた。

・**first reading**における発問がQ&Aであったが，難易度が若干高かったように感じる。疑問詞を用いた疑問文より，Yes または No で答えられるものであったり，質問が日本語であったりしても，よいのではないか。また，答えを教科書本文中から抜き出すことが難しいのであれば，本文にunderlineを引くことなども考えられる。スモールステップで，どの生徒にも取り組みやすい方法を考えていきたい。

・**second reading**では，生徒の想像力をかきたてるような発問が必要ではないか。例えば，今回は自分が注文した数に満たない商品を渡されたが，生徒自身が今まで学習した内容を使用し，自分が実際にこのような場面において，どのように発言したり，行動したりするかを考えさせて実演させることが，表現活動になりうる。

6. 成果と課題

これまでの研究活動では，文献研究と授業実践の映像を用いた学習会，そして統一授業研を実施してきた。発問の工夫についての文献研究において，授業内での発問が生徒の考える意欲を引き出すカギであることを部会全体で認識した。また，発問の工夫は，生徒が授業に集中し，積極的に英語を使うモチベーションを導き出すことができる有効な手段になりうることを学習することができた。夏季学習会では，発問の工夫を意識した実際の授

業実践の映像を見ることによって、文献研究の時点ではイメージすることが難しかった実際の授業内での有効な発問の工夫や、より教科書の内容理解が進められる発問の組み立て方、そして、発問によって児童・生徒の学習意欲を高め、表現活動につなげていく方法を研究することができた。統一授業研では、これら二つの研究活動の成果の一つとして、発問に焦点を当てた授業を行い、研究討議を行った。研究討議の中では、本部会の研究テーマにあるように、発問を工夫していくことで最終的には児童・生徒が意欲的に英語を話す姿を目標にしていることを再確認しながら、授業研で行われた実践を改善したり、更に高めたりする方法について、様々な意見が出され、本部会の研究が厚みを増していくことが感じられた。

本部会では今後、第一回目の統一授業研までの研究を踏まえ、部員がそれぞれの学校で発問の工夫を意識した授業実践を行い、その成果や課題などを部会で発表し、研究討議を行っていく予定である。部会員全員が実際にテーマに沿った授業実践を行うことで、多くの研究資材を生み出し、議論を深めることで、今年度の研究を実際の児童・生徒のためになるような確かなものとしていきたい。

## 7. 参考文献

・田中武夫・田中知聡著（2009）

『英語教師のための発問テクニック～英語授業を活性化するリーディング指導～』  
大修館書店

## 8. 研究組織および部員

◎東山梨支部の小中学校より29名の研究部員で構成

- |      |               |                 |
|------|---------------|-----------------|
| ・世話人 | 廣瀬芳樹（笛川中学校）   |                 |
| ・部長  | 中村大介（山梨北中学校）  |                 |
| ・副部長 | 水上かおり（山梨南中学校） | 奥田真由美（塩山中学校）    |
| ・部員  | 依田 久（山梨北中学校）  | 平井成二（塩山中学校）     |
|      | 古屋浩紀（山梨北中学校）  | 筒井栄太（塩山中学校）     |
|      | 秋山悦子（山梨北中学校）  | 三枝ゆかり（塩山中学校）    |
|      | 関岡由香子（松里中学校）  | ブリタニー・エマ（松里小学校） |
|      | 長嶋明美（山梨南中学校）  | 広瀬竜太（松里中学校）     |
|      | 大村 隆（勝沼中学校）   | 丸山正史（勝沼中学校）     |
|      | 梶原ナツミ（勝沼中学校）  | 杉山智恵（大和中学校）     |
|      | 篠原大志（山梨南中学校）  | 小野真理子（岩手小学校）    |
|      | 初鹿野要一（笛川中学校）  | 神宮寺剛（井尻小学校）     |
|      | 辻 由樹（笛川中学校）   | 岩下城（牧丘第一小学校）    |
|      | 塩澤美希（菱山小学校）   | 飯室林（岩手小学校）      |
|      | 市川安紀（加納岩小学校）  | 岩下秀人（日川小学校）     |
|      | 中山貴彰（日川小学校）   |                 |